

日本混相流学会
2007 年度第 4 回理事会・議事録

日時：平成 20 年 3 月 8 日(土) 13:00-17:00

場所：チサンイン江坂

出席者(理事)：井口学(会長)、矢部彰(筆頭副会長)、逢坂昭治(企画担当副会長)、奈良林直(情報担当副会長)、石井俊夫(国際部会長)、大参達也(総務部会長)、渡部正夫(九州地区担当理事)、大成博文(リエゾン担当理事)、大川富雄(関西地区担当理事)、齋藤隆之(学生会担当理事)

出席者(オブザーバー)：近藤健(事務局)、道奥康治(編集委員会副委員長)

議題と配布資料：

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1. 前回議事録の確認 | [資料 2007-4-01] |
| 2. 評議員・監事選挙結果 | [資料 2007-4-02] |
| 3. 情報部会報告 | [資料 2007-4-03] |
| 4. 企画部会報告 (OMF 実行委員会) | [資料 2007-4-04] |
| 5. 国際部会報告 | [資料 2007-4-05] |
| 6. その他 | [資料 2007-4-06] |
| 7. 企画部会報告 (リエゾン委員会) | [資料 2007-4-07] |

議事：

1. 前回議事録確認

大参総務部会長から、資料 2007-4-01 に基づき前回議事録の確認があった。訂正等ある場合には近日中に総務部会長まで連絡することとした。

2. 評議員・監事選挙結果

学会事務局より、評議員・監事選挙の結果が報告された。(資料 2007-4-02)

3. 情報部会報告

3.1 編集委員会報告

高橋情報部会長の代理として出席した道奥編集委員会副委員長から資料 2007-4-03 に基づき以下の報告があった。

(1) 論文投稿状況の報告

(2) 会誌発行に関する報告

22 巻 1 号～22 巻 2 号までの会誌編集状況が報告された。

(3) 会誌の編集方針／長期編集企画に関する報告

22 巻の特集記事タイトルの予定と編集委員会の開催スケジュールが報告された。

(4) J-Stage 関連

CrossRef は申請済みであること、会誌第 22 巻 1 号掲載論文からの公開作業は外注によること、過去の論

文についても同様に外注で対応する予定であることが報告された。

(5) インターネット運営委員会関係

学会誌掲載論文の参考文献を英語表記にするためのフォーマットをホームページおよび会誌12月号以降に掲載していることが報告された。

3.2 投稿論文の増加策について

井口会長より、会誌へのオリジナルペーパーの投稿数が著しく少なくなっている事に対する対応策について問題提起があり、現状とその問題点について議論した。

4. 企画部会報告 (OMF 実行委員会)

第11回オーガナイズド混相流フォーラム (OMF2007-Akita) の決算報告が、佐藤博 OMF 実行委員長作成による資料 2007-4-04 として提出された。

5. 国際部会報告

石井国際部会長から資料 2007-4-05 に基づき、国際交流委員会、ICeM 委員会、ICMF 委員会、日欧二相流専門家会議、および混相流計測技術国際シンポジウム委員会の活動状況が報告された。

6. その他の報告等

(1) 大参総務部会長から資料 2007-4-06 に基づき、年会 2009 についての九州地区での討議結果（開催予定地、実行委員長、実行委員総務担当）、および論文審査委員2名の退任について報告された。年会の概要は渡部九州地区担当理事からの連絡、論文審査委員の退任は社河内論文審査委員長からの報告に基づくものである。

(2) 中国・四国地区担当の大成理事より口頭で、中国・四国地区代表の後任として稲葉英男氏（岡山大学）が推薦され、承認された。

(3) 3月5日付け入会者を承認した。退会希望者については慰留可能かどうかを確認することとした。

(4) 井口会長より、日本工学会から選挙の依頼が来ている旨報告があった。対応は会長一任とすることとした。

(5) 井口会長より、名誉会員の訃報を学会ホームページに掲載してほしいとの会員の要望があったことが報告された。訃報の事実確認や情報公開に関わる問題があるため、事後にホームページに掲載することとした。

7. 企画部会報告 (リエゾン委員会)

7.1 リエゾン技術専門委員会報告

大成リエゾン担当理事から当日持ち込み資料 2007-4-07 に基づき、第2回マイクロ・ナノバブル技術基礎セミナーと第3回マイクロ・ナノバブル技術シンポジウムの実施報告がなされた。前回の理事会資料 2007-3-05 に添付された文書「第2回マイクロ・ナノバブル技術基礎セミナー報告 衝撃の阿智村プロジェクト」はセミナーの概要を理解するための参考資料であるとの補足説明があった。また、今後の予定として、第3回マイクロ・ナノバブル技術基礎セミナー、第4回マイクロ・ナノバブル技術シンポジウム、年会でのリエゾン特別セッションの準備状況が報告された。

7.2 セミナーおよびシンポジウムについて

リエゾン技術専門委員会によるセミナーやシンポジウムのあり方について議論した。これらのセミナーおよびシンポジウムと「阿智村プロジェクト」のような各地のプロジェクトとの関係について、大成リエ

ゾン担当理事から、学会と各地のプロジェクトとの間には特別な関係は無く、これらをどう結びつけていくかが今後の課題であるとの現状認識が示された。また、シンポジウム等の黒字を研究会等の形で活用する方策について、矢部筆頭副会長と大成リエゾン担当理事とで議論して次回の理事会に原案を提出することとなった。

以上

作成：大参達也（総務部会長）